

リサイクル研究会（プラスチック資源循環 WG） 事業報告

藪谷祐希*, 山本佳嗣*, 西川 孝*, 苔庵泰志*

Annual Report of Meeting for the Study on the Circulations of Plastic Resources

Yuki YABUYA, Yoshitsugu YAMAMOTO, Takashi NISHIKAWA and Yasushi KOKEAN

1. はじめに

三重県では、県内企業、大学等の高等教育機関、行政機関、支援機関等と連携・協働し、県内企業の新たな挑戦を支援するために、平成 29 年度から「みえ産学官技術連携研究会」を発足させた。本連携研究会は、技術分野横断的な研究会活動を主体として、多様な機関が有機的に連携し、企業の課題解決や産学官の戦略的な取り組みを通じ、地域イノベーションの創出を目指すものである。また、「みえ産学官技術連携研究会」は令和 7 年度にリニューアルして、工業研究所と新産業振興課が連携して研究会を進めることとなった。その中で、リサイクル分野の研究会として「リサイクル研究会」を立ち上げた。旧来の「リニア経済（大量生産・大量消費・大量廃棄）」から、「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」への移行が求められる中、ものづくり研究課では、プラスチック分野を対象とした「(プラスチック資源循環 WG)」を担当し、プラスチック製品の製造・加工や、化学系、有機系材料を扱う企業を中心に産学官のネットワークの構築やリサイクル技術によるプラスチックの資源循環を目指す取り組みを進めている。具体的には、研究会の開催を通して、使用済みプラスチックや廃材のマテリアルリサイクルに関する技術情報の提供、および課題等に関する意見交換を行い、県内ものづくり企業の競争力強化や新産業の創出を支援している。

2. 研究会の開催

令和 7 年度に実施した研究会の概要を表 1 に、公開形式で実施した第 3 回研究会の開催の様子を図 1 に示す。

3. 事業の実施結果

第 3 回研究会では、近年注目が集まっている、欧州 ELV 指令（欧州における、廃自動車（ELV : End-of-Life Vehicle）のリサイクル推進に関する規則）への対応状況等について、一般社団法人日本自動車工業会の取組を紹介するとともに、プラスチックの加工機器メーカーによる、リサイクルに適した材料や成形技術についての講演を行った。研究会参加者の属性は「プラスチック排出事業者」が最も多かった。これは、「排出事業者」はリサイクルの促進が求められる当事者として、当該テーマへの関心が高いことを示している。

参加企業へアンケート調査を行った結果、リサ



図 1 第 3 回研究会開催の様子

* ものづくり研究課

イクル産業の成長に必要なものとしては、「行政の関与」との回答が最も多く、次いで「他の企業との連携・協働」、「優れたリサイクル技術の開発」となった。排出事業者からの回答では、「他の企業との連携・協働」との回答が最も多く、自社内のみでリサイクルを進めることは難しいと考えていることを示唆するものとなった。一方で、関与を求められる行政の立場からは、「専門人材の育成」との回答が多く、人材が不足している実情が窺える結果となった。

行政に求めることとしては、「連携・協働の場の提供」との回答が最も多く、これはほぼすべての属性からの要望であった。特に、「連携・協働の場の提供」との回答は、「排出事業者」と「研究機関」からの回答で多く見られ、これらの間でのマッチングの機会等を設けることが求められているといえる。また、排出事業者からは「業者への補助制度の拡充」との回答も多く、何らかの公的支援を期待する声が多いことも窺えた。

工業研究所に求めることとしては、行政に求めることと同様、「連携・協働の場の提供」との回答が最も多く、当研究会の活動を今後も継続して行っていく必要があるといえる。また、「技術マッチングの仲介」を求める声も多く、研究会をさらに発展させていくことも重要である。工業研究所が実施する研究開発への期待としては、「優れたリサイクル技術の開発」もさることながら、「リサイクル技術の実証」への期待が大きく、社会実装までを見据えた研究開発を行うことが求められているといえる。

4. 今後の取り組み

次年度以降も本研究会の活動を通して、プラスチック資源の循環利用に関する情報提供や意見交換を行い、県内企業のニーズに沿った技術開発やマッチング支援等に繋げていく方針である。

表 1 令和 7 年度に開催したリサイクル研究会

研究会名	開催日	場所	内容	参加者数
第 1 回 リサイクル研究会	令和 7 年 10 月 31 日	参画企業事業所 (個別開催)	使用済み混合ポリオレフィン樹脂の物性改質と繰り返し混練が劣化に及ぼす影響	2 名
第 2 回 リサイクル研究会	令和 7 年 12 月 18 日	参画企業事業所 (個別開催)	廃棄物を有効活用したリサイクルプラスチックの製品開発	4 名
第 3 回 リサイクル研究会	令和 8 年 2 月 5 日	工業研究所	(講演) 「再生材活用促進に向けた自工会の取り組みについて」 一般社団法人日本自動車工業会 環境技術・政策委員会 リサイクル・廃棄物部会 部会 嶋村高士 氏 「環境負荷を低減する最新の射出成形技術」 芝浦機械株式会社 成形機技術部 営業技術課 桃野政道 氏 「熱可塑 CFRP のトータルソリューション～材料から成形まで～」 芝浦機械株式会社 押出技術部 営業技術課 丸山健一 氏 (取組紹介) 「工業研究所の取組み」 三重県工業研究所 ものづくり研究課 藪谷祐希	24 名

第4回 リサイクル研究会	令和8年 2月16日	参画企業事業所 (個別開催)	複合プラスチックのリサイクル技術の開発	3名
第5回 リサイクル研究会	令和8年 2月17日	参画企業事業所 (個別開催)	廃棄バイオマス素材のリサイクル技術の開発	1名
第6回 リサイクル研究会	令和8年 2月20日	参画企業事業所 (個別開催)	廃棄食品素材のリサイクルの製品開発	4名
第7回 リサイクル研究会	令和8年 2月26日	参画企業事業所 及びオンライン (個別開催)	リサイクルプラスチックの製品開発	4名
第8回 リサイクル研究会	令和8年 3月13日	参画企業事業所 及びオンライン (個別開催)	廃棄プラスチックの再利用方法に関する検討	18名
第9回 リサイクル研究会	令和8年 3月2日, 16日	参画企業事業所 (個別開催)	廃 FRP プラスチックの製品開発	2名